

挑む!

奈良・山添村のコミュニティナース

えぼら 荅原 優子さん(31)

村の健康相談 身近に 気軽に



横浜市出身。中学生の時、無医村で活動する看護師の話を読み、看護師を志した。奈良赴任決定後に運転免許を取り、初心者マークの車で村内を巡る。

過疎地などに看護師が移住し、地域に暮らして健康づくりやまちづくりを担う。奈良県で初めて、その「コミュニティナース」となり、この春、県北東部の山添村に赴任した。

神奈川県横須賀市の総合病院の救命

救急センターに5年間勤めた。脑梗塞で倒れて発見が遅れた人や、家で動けなくなって末期がんだと分かった人……。独り暮らしの高齢者が次々に搬送されてきた。

「病院では救えない命がある。手遅

れになる前に相談できる相手が身近にいれば」。そんな思いが募った。青年海外協力隊員としてバン格拉デシュで活動後、東京でコミュニティナース養成講座に参加。奈良県東部や南部の奥大和地域に配置を進めようとしていた県に採用されて、山添村に来た。

まず村内をくまなく歩いた。地域の会合に顔を出し、顔を覚えて声をかけた。不審がっていた人もやがて気軽に接してくれるようになった。朝は一緒にラジオ体操。週に2回、ガソリスタンドで健康相談に応じる。独り暮らしのお年寄りの家などを回り、雑談しながら様子を見る。

病院に行くことをためらう人が多い一方、「お宮さん」を中心とした共同体の互助精神は強い。「地域の力を生かしながら、一人ひとりと向き合っていきたいです」

文・写真 古沢範英

記者から

声をかけられ、「金曜日の体操で!」と笑顔で返す。すっかり村に溶け込んでいました。